

10

古文1

係り結びと反語

組	
番号	
氏名	

1 次は、「竹取物語」の冒頭の部分です。これを読んで問いに答えなさい。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつ
つよろづのことに使ひ（ a ）。名をばさぬきの造となむいひける。
その竹の中にもと光る竹なむ一筋あり（ b ）。あやしがりて寄り
て見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと
うつくしうてゐたり。

(1) 「さぬきの造となむいひける」では、「なむ」という助詞に呼応して
文末が「ける」と変化しています。

① 「なむ」のような助詞をなんといいいますか。

② ①の助詞と文末の結び方との関係をなんといいいますか。

(2) 文章中の（ a ）、（ b ）に入る適切な言葉を次の語群の中か
ら一つ選び答えなさい。

語群

なり	なる
けり	ける

(a)	(b)

2

次は「論語」の一節です。文章中の――部に共通する表現上の技法を答えなさい。

子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説いふばしからずや。朋遠ともえんほう方より来たるあり、また樂たのしみしからずや。人知らずして慍うらみず、また君子くんしならずや。」と。